



PRESS RELEASE

令和8年6月26日
取手市教育委員会 生涯学習課 埋蔵文化財センター

埋蔵文化財センター第57回企画展 「古文書が語る郷土の歩み」を開催します

埋蔵文化財センターでは、第57回企画展「古文書が語る郷土の歩み」を、7月28日（火）から9月27日（日）の会期で開催します。

歴史を調べるにあたり、第一に参照する史料は古文書です。差出人（作成者）から受取人に対して、何らかの意思を伝えるために作成された古文書は、歴史上の事実を知るための第1級の史料と言えます。

今回の企画展では、歴史研究の最重要史料である市内に残された古文書やその解読文などを展示して、古文書を解読して調べることによってあきらかとなってきた郷土の歩みを紹介します。また会期中に、古文書解読入門講座、展示解説、考古学特別講座を行います。

第57回企画展

会 場：埋蔵文化財センター展示室（吉田 383）
会 期：令和8年7月28日（火）から9月27日（日）まで
休館日：9月21日を除く月曜日
時 間：午前9時から午後5時まで、入館は4時30分まで

【古文書解読入門講座】

埋蔵文化財センター職員による古文書解読入門講座を2回実施します。
定員は、事前申込制により各30名
（詳細は次ページを参照ください）

【展示解説】

展示会場で、担当職員が展示の見どころを解説します。
申し込み不要で、8回実施します。
（詳細は次ページを参照ください）

【同時開催 考古学特別講座】

中妻貝塚出土の多数合葬墓の研究でも著名な東京都立大学教授山田康弘先生を講師に迎え、会期中に考古学特別講座を開催します。
（詳細は次ページを参照ください）

企画展と関連する行事は、全て無料です。

問い合わせ先	取手市 教育委員会 生涯学習課 埋蔵文化財センター 担当者：飯島 章、水越 由里彩 電話：0297-73-2010（直通）、（市役所内線 3130・3131） E-mail：maibun@city.toride.ibaraki.jp
--------	---



【古文書解読入門講座】

和紙に筆で書かれた古文書の内容を知るためには、特異な「くずし字」を解読しなければなりません。古文書解読のアプリも開発されている今日この頃ですが、機械に頼らずに自分でこれから古文書を読みたいと考えている初心者を対象に、古文書解読入門講座を開催します。

講 師：埋蔵文化財センター職員

会 場：埋蔵文化財センター講座室

日 時：①第1回（2回連続）

8月8日（土）・22日（土）

②第2回（2回連続）

9月12日（土）・26日（土）

第1回・第2回とも午後1時30分から3時30分（途中休憩あり）

定 員 各回30名（事前申込制：詳細は市HP等でお知らせします）

第1回・第2回とも同内容になります。

【展示解説】

企画展の見どころを埋蔵文化財センター職員が解説します。

会 場：埋蔵文化財センター展示室

日 時：①午前11時からと午後2時からの2回

8月2日（日）・11日（火・祝）、9月22日（火・祝）

②午前11時からの1回

8月8日（土）・22日（土）、29日（土）、9月12日（土）・26日（土）

申込み：事前申込不要・当日自由参加

【同時開催 考古学特別講座】

会期中、考古学・人類学の第一人者であり、中妻貝塚出土の多数合葬墓の研究でも著名な東京都立大学教授山田康弘先生を講師に迎え、考古学特別講座を開催します。

演 題：中妻貝塚の96人 ―なぜ人々は合葬されたのか、生物考古学から見た縄文社会―

講 師：山田康弘先生（東京都立大学教授）

会 場：福祉交流センター多目的ホール（取手市役所敷地内）

日 時：8月29日（土）

午後1時30分から3時まで（開場は1時）

定 員：180名（事前申込制：詳細はHP等でお知らせします）



主な展示資料

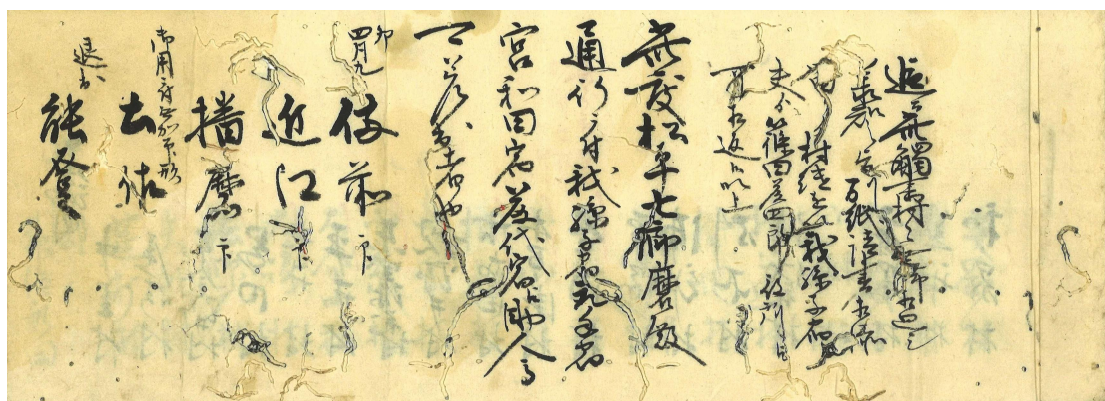


寛永 11 年（1634）9 月 雁金村（吉田村）検地帳（個人蔵）左から、表紙、2 頁目、奥書
 検地とは、耕地と屋敷地の面積を一筆ごとに算出し、その土地からどれだけの米が収穫できる
 かで等級付けし、土地の耕作者（名請人）を確定することを言います。検地の結果を記した帳
 簿を検地帳と言い、江戸時代の村にとっては最も基本となる台帳です。



貞享 5 年（1688）5 月 岡堰裁許絵図（取手市教育委員会蔵）

岡村と小貝川をはさんだ中平柳村・下平柳村（現つくばみらい市）の間で村境をめぐる争論が起
 り、幕府の評定所に訴え出ます。左は評定所から
 出された裁許状（判決文）です。反対側には岡堰
 の絵図が描かれ、裁許で確定した村境が示されて
 います。絵図は、岡堰を描いたものでは最古とな
 り、これまで何度か展示してきましたが、今回初
 めて裁許状の側を展示します。



天保 14 年（1843）4 月 松平七郎麿御通行御印状（染野修家文書）

この時、江戸から水戸に向かう松平七郎麿（後の徳川慶喜）は、取手宿を通りました。